

# 総務産業常任委員会会議録

- 1 日 時 令和6年5月13日(月)  
9時57分開会 10時30分閉会
- 2 会議場所 役場3階 第1委員会室
- 3 出席議員 委員長：中河つる子 副委員長：田村幸紀  
委 員：只野敏彦、鈴木孝寿、中島里司、深沼達生  
議 長：山下清美
- 4 事務局 事務局長：大尾 智、次長兼総務係長：川口二郎、
- 5 傍聴者 山本奈央
- 6 議 件  
(1) 町民との意見交換会のテーマについて  
(2) その他
- 7 会議録 別紙のとおり

【開会 9 : 5 7】

(1) 町民との意見交換会のテーマについて

委員長（中河つる子）：只今より総務産業常任委員会を開催する。今日は町民との意見交換会のテーマについてである。前回皆さんに考えてきてほしいということで投げかけてあったが、広報の締め切りが5月17日であるため今日決定したいと思うのでよろしく願います。皆さんの意見、考えてきた意見を発表していただきたいと思う。

中島委員：特にないけれども、町民から聞くということではプレミアム商品券、いつまで続くかわからないけれども、今後のことを考えた時、希望とかあったらということはある。

深沼委員：何がいいかと思いながら、防災に関して、実際清水で災害が起きたこともあるし、実際町民の方がどう思っているのかという部分と、個人の備えというか災害に対しての備えの部分、どこまで意識が高いのかという部分の意見を聞いてみたいと思う。

鈴木委員：意外と町民の意見を聞く機会がこれまでなかった2点ほど、今年7月に1万円札が変わって渋沢栄一翁になるけれども、これまで交流してきたが、私は一方通行の交流と指摘させてもらっているけれども、町民は一体どう考えているのか、この後も深谷市などとどういつながりを期待しているのか。意識を聞いてみたいというのは、今後渋沢栄一翁と観光を含めたり、または1万円札になった後どういうように交流すべきかというのを聞いてみたいというのが1点と、もう1つが町まるごとホテルと言って何年もやっているけれども、なかなか進んでいない。町民としてどういう意見を持っているのか、もしくはどんどん町が進めているように一般の家庭でもホテル化をするというような意見があるのかどうかというのを聞いてみたい、この2点である。

田村委員：2点ほどあるが、通常テーマを決めて町民の皆さんと意見を交換するという意味でいったら、町内会、理想はわかるけれども、実際どうなのか、現場の本音を聞く機会というのを持っているような、持っていないような感じなので、一度しっかりと聞くということで、運営の仕方までは口を出さないが、議員も一緒に執行側の意見に対してものを言う場になるのか、町民同士が話し合いするところにオブザーバーとして入るのかによっては話し合いの仕方が変わっている。町の執行する事業に対して町民の方から意見をもらった時に、答えられないと結局その会自体が終わった時に、参考にするとか承るで終わるのはもったいないという部分があったので、運営の仕方は検討いただきたいというのがまず1つ。それでやるのであれば、町内会のことは現場の声が聞いてみたい。もう1つ、テーマは何でもいいが、町の事業に対して間に入る町議会議員に求めることというのを引き出せるような運

営の仕方をしていけばいいと、テーマにするとなったらこちらの所管とは違うけれども、町議会議員に求めることとか、町議会議員に物申す機会を設けるみたいな感じで、町の事業に対して町議にこういうようにやってもらいたいという場をとれた方が意見交換にはなると感じた2点である。テーマで上げるなら町内会ということとで願います。

委員長：今まで出てきた中で女性が少なくて、女性の声というのがほとんどあげる機会がなかったと思う。それで、女性の声が出しやすいようなテーマを考えなければならぬけれども、女性の声が出しやすいテーマというのを一つ入れたらどうかと考えてきた。今色々出たけれどもテーマは1つではないか。

議会事務局長（大尾 智）：厚生文教から1つと、総務産業から1つ、もう1つは先程の議会に求めることにつながる可能性はあるけれども、フリートークというか特にテーマを設けなくて話していただく中では、例えばそういうこともできると思うけれども、時間も限られているから、3つぐらいに絞って各テーマ30分程度でというような、前回と同じように、あまり多くのテーマを話す時間はないと思うので、総務産業としては1個、できるだけ具体的なテーマでないと、色々な話が広がりすぎてしまうと思う。ちなみに厚生文教は地域交通、交通弱者のあり方について、今年9月でコミュニティバスが廃止になるので、今後のあり方等について町民の意見をいただくというのが厚生文教のテーマである。

委員長：厚生文教のテーマも聞いたが、今回、若者の定住移住、プレミアム商品券の今後の希望、防災町民の備え、意識、渋沢栄一との交流、町まるごとホテルに対して町民はどう考えているか、町内会のあり方、町議に求める事というのは大きなことの方に入ると思うが、一応町議に求めること、女性の声が出しやすいテーマということであったが、この中から1つを決めていくことになるが、それぞれ別々なので。

中島委員：今の進めでいくと当然こういうことになる。誰がまとめるのかということになる。一応各自考え方言ったわけだから、どれに絞るかということにはならないので、いつものことだけれども、まとめとなれば委員長と副委員長である程度状況を聞いて、まとめなければ、この場で絞ろうという意見交換にはならないと思う。ある程度絞った状況でこの場に諮るならわかるが、各自で意見言ってどれにするかというのは、実際にはまとまらない会だと思ってしまうので、それからいくと何がどうではなくて、個々の考え方は聞き置いてということで、あとは委員長と副委員長で絞ってもらいより致し方ないのではないかと思う。議員に求める事というのは私たちの委員会の担当ではない、議運だから。その辺を含めて整理して、そして最終的にはこういうことで決定したということでもいいのではないか。それでなければ良いにつけ悪いにつけ誰かに判断してもらわなければまとまらないのでは。誰か引っ込めるかという話もおかしいので、申し訳ないけれどもまとめていただきたい。個人的なこととして、タイミングとして7月3日に新札が発行される。その辺からみたら渋沢栄一翁の絡みというのは、話題がそれ過ぎたらどうなっていくのかというのは、私も全く想像つかないし深く考えたこともないけれども、その辺が時期としてはこれを逃したら、あとそういう機会が少なくなってくる。他はいつでもいいとは言わないけれども、時期をずらして

もある程度協議していけるのではないかという個人的な感じをした。全体的に判断していただければ結構だと思う。

委員長：委員長、副委員長でという意見があったが特に何かあれば。

鈴木委員：町内会はすごくやりたいと思ったけれども、考えてみたらうちの委員会と違う。ちょうどいいのだけれどうちではないと。議会に求めることは議運で最後付けるか付けないかやることだから、町民の意見を聞くところがなかったと思ってやっていたけれども、定住移住でも防災も大事だし、女性に関するテーマは一番大事だと思うけれども、どれが意見が出やすいか、結局は防災にしたら全体的だけれども、意見出そうでなかなか出ない、結局堂々巡りになって終わってしまうというのがあったり、定住移住に関しても面白いテーマというか、これから力入れなければならぬけれども、住民がどう考えていくかというのは結局どん詰まりになってしまうと、もう一步、何の定住なのか、若者の職場のあり方についてとか、仕事のあり方でというならいいのだろうけれども、かと言って渋沢栄一翁がいいかと言ったら、個人的なところが強いからあれだけれども、これだけ金かけといて結局来年以降どうするのかと言ったら、福沢諭吉の時もそうだけれども、みんなその年に終わってしまう。そう考えると、どれもこれも正直言ったら盛り上がらないテーマだと思う。地域交通なんか特に盛り上がらない気がする、歳を取っている方々にはすごく大事なことだけれども、いつも来ているメンバーというか、どのような人を集めるかという去年のような集め方をするのだけれどもどうか、女性に関するテーマはある意味、清水、御影どちらかは女性だけの参加者に逆にした方が面白いと思ったりもする。でも、そうもならないだろうから難しいと正直思って、まとめきらないと思う。委員長がどうしても女性に関するテーマというならそれはそれで全然いいけれども難しいと思う。

委員長：女性の声というのは、参加は女性が少ないし、あそこの場がそういう話になるかどうかはちょっとわからなくて、さっき言ったように女性のところに私たち議員が行って話を聞くということであれば、意見も出ると思うけれども、あそこの場では言いづらいという感じはある。本当に難しいところであるが。

只野委員：鈴木委員は盛り上がるか盛り上がらないかというのを重点にしていると思うけれども、私は盛り上がるか盛り上がらないではなく、これが大事だというところのテーマを言っているので、それが盛り上がらないというのはやってみないとわからないところもあるし、やり方にもよるだろうし、そういうのは各個人の意見だから、各個人がどう考えるかの思いがあるだけのことで、こういう出し方するとなかなか決まらないというのは確かだと思うし、委員長、副委員長でこれだと決められたのでいいのではないか。地域交通、こちらからしたら鈴木委員が言われたようにちょっとと思うけれども、それは向こう側でそのテーマを出されたから、誰かが折れてこちらの方にと言わない限りは、このテーマになると言うわけにはいかないの、委員長、副委員長でこの中から選んでいただければ、それで私は納得する。

鈴木委員：盛り上がる、盛り上がらないというのはどうでもいいかもしれないけれども、町民が関心持って来てくれるためには何がいいのかというテーマを考えなければなら

ない。言葉足らずで言ったけれども、盛り上がる、盛り上がらないということは関心あるかないかだから、そこに来なくてもいいという話には当然ならないので、町民が来やすいテーマ、喋りやすいテーマというのがベストだと思う。今、大きな問題が清水町にあるのかと言ったら、たくさんあるけれども、町内会も含めて、ただうちの委員会としては色々出たから、この中なのだろうと。只野委員が言っている定住移住が悪いと言っているのではないけれども、もう1個突っ込んだ中のものならもう少し食いつきがいいと思う。例えば移住だったら住宅に関する事とか、若者定住だったら仕事とかというように、もう少し掘り下げていった方がいいと思ったりもするけれども、あと他の委員から出たものももちろんこれはこれでいいと思うけれども、かと言って若者だけにすると今度どうかとか、町まるごとホテルと言って、結論出ると言ったら出ないし意見も出ないことは分かっているから、ただ議員としてはこの後どのような展開を町民の声があるのかというのを聞くのは一つだと思うので、それからいくと、例えば防災とか、女性に関する事とか、商品券とか、この辺になってしまうのかなんて思うけれども、ひとしきり言いたいことだけ言わせていただきつつ、町民が来やすいというか、来てもらって話し合いをしてその結果をどうしていくかということが大事であって、例えば私みたいなまるごとホテルやったからといって人来るのかといたら来ないし、渋沢栄一翁は7月だから、1万円札になって来年どうするのかという話で皆どう考えているのかというの聞いてみたいところだけれども、だからといって先に繋がるかといったら繋がらない。渋沢栄一翁とホテルについてはこのぐらいの気持ちでしかないのではあれけれども、それらを含めて考えるといいのではないか。できれば来ていただけそうな、町民が参加しやすいテーマだと思う。これが一番、そうでないとまず集まらないと話にもならないので、前回みたいに中途半端と言うか、なんかこう結論出したけれども、これでは参考にならないと言ったら変だけれども、去年はスタート段階としてはあれだが、それを踏まえての今年2回目はもう少しきちんとやらないとならないので、1会場10人とか、そんなのでは話にならないので、参加しやすいテーマというのをメインで考えていただきたい。あとは、ひとしきり言ったので結構だけれども、あとはおまかせしたいと思う。言っているのは町民が参加しやすいテーマというのだけお願いしたいと思う。

委員長：委員長、副委員長に任せるといえるのと、町民が参加しやすいテーマという中で考えるということではよろしいか。

(「はい」との声あり)

委員長：それではそういうことにする。

議会事務局長：参加しやすいテーマ、イコールできるだけ分かりやすい、例えば何々についてという漠然としすぎるので、できるだけ細かいものに絞った方がいいというところ、あと厚生文教のところで地域交通のあり方、今主に利用されている方は実際に自分で手段を持っていない方だろうが、そういう方はないと困るというのは当然そういう意見が出てくると思うけれども、例えば若い方はどう考えているか、今自分たちは自分でできるのでいいけれども、若い人たちはそんなのいらないと思っているのか、町としては若い人たちも必要だと思っているのかということで、いわ

ゆる利用する人だけではなくて、若い人たちの意見もそこで聞いてみたいという話  
は出ていた。今必要としていない方も町としては対策が必要だと、それとも本音と  
してはそこにお金かけないで、別なことをやってと思っているのかという部分もあ  
るというところでも、若い人たちの意見も聞きたいというような話が出ていた。

委員長：色々考えればそういうように来ている人皆が考えるようなテーマ、厚生文教の方も  
そのように思うし、私たちもそれで町民が参加しやすい、それをさらに分かりやす  
いテーマということで、副委員長と一緒に皆さんから出された中から選んでいき  
たいと思う。それでよろしいか。

(「はい」との声あり)

(2) その他

委員長：ではそういうことで考えたいと思う。次にその他、次回の日程は6月7日とい  
うことでよろしく願います。

鈴木委員：予定としては、後々調査に行くから、調査行く前にうちの委員会として必要な  
ことをやりながら次につなげていく、たぶん9月では調査結果は継続審査になると思  
う。その方が、しっかり勉強して行くならその方がいいと思うので、それに合わせ  
た例えば四国行くなら行く、どこ行くならどこ研修する、今のところはある程度決  
まっているけれども、その調査内容と合致するように、それこそ例えば神山町に  
もし行けるとするならば、そこは定住移住もやっていけば、総合計画の立て方とか  
そういうまちづくりの作り方というのか、行政主導ではない、民間指導でやってい  
るので、そういうところも勉強していかなければならないというのが合致するので、  
それぞれで神山町あたり、もう一つは向こうの委員会なのかもしれないけども、調  
査したというか、インターネットで検索しながらこういうところをやった方がいい  
というのと合わせて、6月のところでこれやりますと言った方がいいと思う。

委員長：9月以降に行く道外研修についての勉強、前回只野委員からもそういう面での勉強  
もということが出ていたけれども、そういう内容にするということで。

鈴木委員：それが1つと、例えば9月までにどうしても結論出さなければならないというか、  
喫緊の問題でどこかでやらなければならないのは、6月から9月までで完結するも  
のをやった方がいいし、別に2本立てでも構わないわけだから。

委員長：緊急というか、今話し合った方がいい内容、それと、訪問をする神山町に見に行く  
内容について、あらかじめ勉強する、そういう内容と必要であれば2本立てとい  
うことでいいか。

(「はい」との声あり)

委員長：次の所管事務調査としてはそのようにしたいと思う。その他ないか。議長から何か

意見あるか。

山下議長：9月の道外調査、両委員会で行く予定にしているので、そういった部分も含めた調査項目にしていけばいいと思っているので、次回の6月7日までにそれぞれが自己研鑽しながら出していただければいいと思う。

委員長：それではそういうことで、それぞれの自己研鑽をして、この次の所管事務調査に出すということで、皆さん考えておいていただく。それでは、以上で本日の総務産業常任委員会を終了する。

【終了 10:30】